


知床の森から

平成7年2月
第35号



北見営林支局
知床森林センター

〒099-41 北海道斜里郡斜里町本町11番地
☎ 01522-3-3009 FAX 01522-3-3160

豊かな知床！ 活力を秘めた 半島の森林

知床半島は今眠りの中。北緯43度50分～44度20分、東経144度45分～145度20分の区域の中で、総面積約10万ヘクタールの半島が静かに待っています。風によって沖合に移動する流水帯、シャベット状の海は運葉氷を浮かべて重そう。トドマツやミスナラ・イタカエドなどの針広混交林と、その上部に広がるエソマツ・トドマツの針葉樹林帯は厚く雪を積もらせ、積雪に見え隠れするハイマツ帯の上部高山地帯は、純白に輝いて樹碧の宙に際立っています。

知床の森林地帯は、冷温帯という気候帯に広く分布する針葉樹と広葉樹の混った森林（冷温帯混針広混交林）で、安山岩の基岩の上に堆積した褐色森林土という土壌上に成立しております。年間雨量799ミリ（24年間平均）、最高気温35度C（昭和53年7月）最低気温マイナス33度C（昭和52年2月）という気象条件、積雪期間約5か月という条件下で林地の生産力は旺盛です。

この生産力をちょっと検証してみます。オホーツク海に面した知床半島のやや中央部、標高160メートルの低山部の針広混交林の国有林で、昭和62年4月に伐採率5%の択伐が138ヘクタールの面積で行われました。この択伐区域の中、北東に面した斜面に試験地1481平方メートルが設定され、調査は昭和63年度からスタートしました。調査結果の何点かについて述べます。

天然更新状況は良好です。ミスナラ伐採木の樹冠下では、伐採後稚木の発生・成長が旺盛です。

（図1）
林分材積の推移では、針葉樹広葉樹とも小径木の本数増加が目立ちます。また材積もわずかですが確実に増えております。これは稚幼樹～小径木～中径木への進階が順調に進んでいることを示しています。（図2）

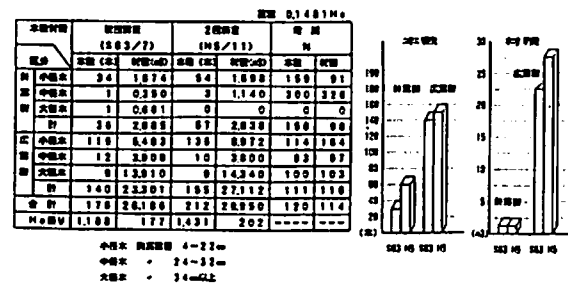
（図1）天然更新状況

(平成6年11月・調査地1734088)

区分	計産樹種	広葉樹	計
種別	83	12	95
種別	24	00	24
種別	107	72	179
種別	6,185	4,162	10,347

種別 - 高さ30cm未満
種別 - 高さ30cm以上、胸高直径4cm未満

（図2）林分材積の推移



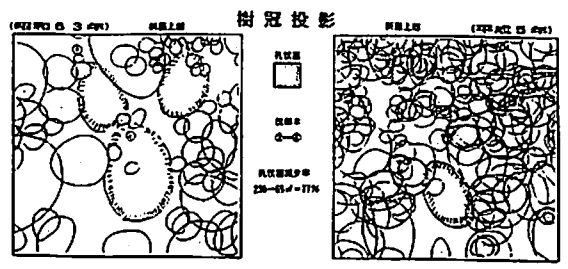
次に択伐によって生じた孔状面の変化をみます。昭和63年の択伐後と平成5年の樹冠投影図の比較で明らかです。択伐によって生じた孔は3個、それが塞がって小さくなっています。その減少率は77パーセントです。

それは孔状面周縁木の樹冠の広がりと、稚幼樹の成長がそうさせたものです。また択伐以前から存在した疎開地も、稚幼樹の更新・成長が促され、林分の密閉に向かっております。（図3）

以上簡単に述べましたが、知床の森林には高い生産力が秘められております。過去知床では異なる流域で択伐の記録があります。それらの箇所も今では森林は密閉し、呑むし朽ちた伐根が当時の伐採の名残を微かに止めているだけです。

今……厳寒の中、注目すればキタコブシやヤナギの冬芽もすこし膨らみ、春を感じ取っている風情です。

（図3）孔状面（空間円周）の変化



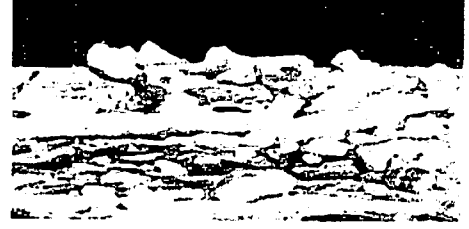
流水到来

いまオホーツク海は流水に覆われています。その一部は知床半島をまわり、根室海峡に入りました。北風が強いせいで、続々と押し寄せて来る感じでした。

先日NHKTVで放映された『生きもの・地球紀行』で、オホーツク海の流水下の海洋生態系と食物連鎖（膨大な植・動物プランクトンの発生）の始まりが紹介されましたが、毎年到来するこの流水がもたらす恩恵ははかりしれません。

いま森の奥深く、枯れることのない浅い清流で、とつくと孵化したサケの稚魚が成長しているはず。この稚魚も春には川を下り海に入って、プランクトンの恩恵に浴するわけで、生態系は海洋と森林は深く繋がっているといえます。

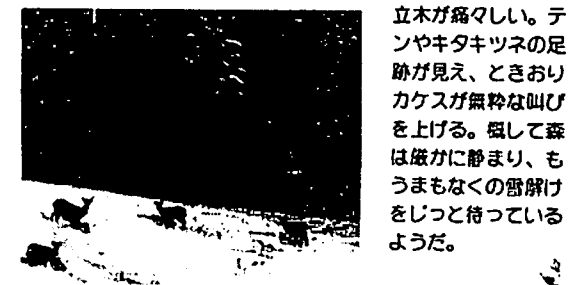
食物連鎖の頂上部に位置するオオワシさえも、その他の生物と同じように流水と関わりを持って生きていると言えます。



知床はいま

例年にくらへ今冬は雪が多いところに、2月17日朝から雪が間断なく降り、ときには暴風雪となって荒れた。知床の森は厚く雪が積もり、枝は湿雪を乗せ重そうにたわんでいる。一面雪に覆われた沢沿いは、寒気の緩みもあって小さな水面を覗かせた沢は綺麗な流れである。

吹く風は冷たいがもう熱とげしさはない。雪面に風紋や吹き溜まりが見え、風感のある雪のオブジェが所どころに見える。森の中は倒木や下生えがすっぽり積雪に隠れ、大木が一際存在感を増している。雪を割って深い溝が長くのび、一群れのエゾシカが通った跡をとどめている。所どころに樹皮を食われた



立木が痛々しい。テンやキタキツネの足跡が見え、ときおりカケスが無粋な叫びを上げる。風して森は微かに静まり、もうまもなくの雪解けをじっと待っているようだ。